

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



GEN なんでも勉強会オンライン（2月24日）ではヨーロッパの人と森の関わりについて学んだ。エストニアでは熱源の40%が木材燃料。藤沼家では一冬で写真の量の薪を消費する。

Contents

- 第28回総会のお知らせ P 2
- GEN ホームページをリニューアルしました P 2
- 自然と親しむ会参加者募集 P 4
- 黄土高原紀行 P 6
- 大同緑化協力25年の軌跡 P 7

2022.3

204

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



緑の地球ネットワーク 第28回総会のお知らせ

第28回総会のお知らせです。
GENは1992年1月から活動を開始し、今年で30年の節目の年を迎えました。現在もおコロナの状況が見通せないため、昨年同様、会場とオンラインの両方で参加いただける総会とする予定です。オンラインであれば遠方からの参加も可能ですので、みなさまのご参加をお待ちしております。
2021年度も日本からスタッフ、ツアー

を派遣することは叶いませんでしたが、張家口市蔚県ではマツとアンズを植樹し、協力活動を継続しています。
国内ではオンライン勉強会、YouTubeのGENチャンネルの配信、ワン・ワールド・フェスティバルの参加など、いまで活動が続いています。
2022年度こそコロナが落ち着き、ツアーが派遣できることを願いつつ、張家口市蔚県での緑化活動を継続してま

GENのホームページを リニューアルしました

GENのホームページが新しくなりました！
さまざまな機能が備わりましたのでぜひご活用ください

- スマホ画面对応になりました
これまではパソコン画面のみの対応のものが多かったですが、新ホームページはスマートフォン、タブレット端末に対応していますので、さまざまなデバイスで見やすく、操作しやすく、楽しめるホームページになりました。
- 会員さま限定ページができました
会員さま限定ページをあらたに作成しました。ここは会員の方同士がオンラインで繋がり、交流できる場です。トップページの右上にある「会員さま限定ページ(ログイン)」よりお入りいただけます。会員さま限定ページにはIDとパスワードが必要です。2月上旬に、はがきにてIDとパスワードをお伝えしていますが、なくされてしまっ

- たなどIDがわからない場合はGENまで(gen@gen-tree.org)ご連絡ください。
会員さま限定ページでは、掲示板での交流のほか、過去におこなったGENなんでも勉強会オンラインの動画、「よみがえる森」などこれまでに作成したGENの映像がご覧いただけます。
- SNSとホームページを連携
ホームページのトップページからGENのFacebook、Twitter、YouTubeなどに簡単にアクセスできるようになりました。
- 「学ぶ」ページに会報バックナンバー「学ぶ」ページにてGEN会報「緑の地球」のバックナンバーを掲載しました。直近2年間のものはご覧いただけますが、これまでのGENの活動をさかの



●英語ページ・中国語ページ
GENの概要を英語と中国語で伝えるページを作りました。海外のご友人にもご紹介いただくとさいわいです。
上記のほか、イベント情報や各種お申込みなどの機能も備えております。ぜひアクセスしてみてください。

います。
* * * * *
【緑の地球ネットワーク第28回総会】
○日程：6月11日(土)13時30分～16時30分ごろ
○会場：大阪産業創造館5階研修室A・B(大阪市中央区本町1-4-5 tel.06-6264-9911 大阪メトロ中央線・堺筋線「堺筋本町」駅1番出口より徒歩5分)
※会場での総会とオンライン(Zoom)を併用しておこないます。総会終了後、同会場にて懇親会を予定しています(状況により、懇親会は中止となる可能性があります)。
詳細は次号でお知らせします。

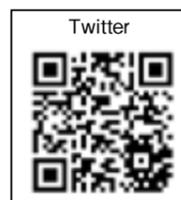
SNSでGENと
繋がりませんか
Instagramを開設しました

長引くコロナ下での暮らし、対面のコミュニケーションは難しくても、オンラインでのつながりは可能です。SNSを使ってGENと繋がりませんか。

GENは現在Facebook、LINE、Twitterで情報発信をしています。また、今年2月にGENのInstagramを開設しました。活動の写実はもちろん、最新のお知らせを発信していきますのでぜひフォローをお願いします。

TwitterとFacebookへのアクセスはGENホームページのトップページ下部にあるアイコンをクリック、Instagramへは下記URLもしくはQRコードよりアクセスください。(https://www.instagram.com/gen_insta_1992)

現在GENで活動中のインターン生がTwitterで精力的に情報発信をおこなっているほか、Instagramでの広報戦略も練ってくれていますのでどうぞ楽しみに。



GEN 自然と親しむ会

参加者
募集

前中代表と歩く「野の道」シリーズ⑱
八尾市・神立で花づくりの里を歩く

毎回好評の前中代表と歩く「野の道」シリーズ、17回目は神立の花づくりの里を歩きます。
八尾市高安山の山ろくは切り花や花卉栽培がさかんな地域で、「花づくりの里」と呼ばれています。この地域を訪れ、春のさまざまな花の観察を楽しみませんか。
○日時：3月27日(日)10時～15時ごろまで
○場所：八尾市神立周辺
○集合：10時に近鉄信貴線「服部川」駅改札前集合(改札はひとつです)。駅からタクシーで水呑地藏尊まで移動します。
○案内：前中久行さん(GEN代表)

○定員：12名(先着順)
○参加費：700円(保険料含む。別途タクシー代600円程度が必要)
○持ち物：歩きやすい服装と靴、飲み物、弁当、敷物、雨具
○申込み：3月23日(水)までにお名前、生年月日、連絡先をGEN事務所までお知らせください。GENホームページの「参加する」ページ(https://gen-tree.org/participate/)からもお申込みいただけます。
※小雨決行
※新型コロナウイルスの感染対策をしながらおこないますが、状況により、変更・中止の可能性があります。

新作公開中！ GENチャンネル

○#12、#13を新たに配信
いつもYouTubeのGENチャンネルをご覧いただき、ありがとうございます。今回、#12「マツを植えるまへの整地」前半・後半と#13「マツを植えて育てる」を新たにアップしました。いよいよ

植樹のお話です。自然環境が厳しい黄土高原でマツは無事育つでしょうか。植樹するうえでの技術とは？ GENのヒストリーを初期の貴重な写真とともに高見さんの語りでご紹介しています。ぜひご覧ください。見ていただいたの

バトンをつなごう！ GEN会員によるリレーコラム 第4回 戦争の超越 川島 和義さん(京都府 GEN副代表)

GEN会員がそれぞれの思いをリレー形式でつなぐリレーコラムです。読んでのご感想や次号をご執筆いただける方を募集しています。

今、ロシアがウクライナに軍隊を進め、市民が攻撃を受けていると報じられている。この文が出る時にどうなっているかは不明だが、かなりの被害が出ることは間違いないだろう。ロシア軍の行為は非難されるべきだということに異論はないが、「国際社会」なるものがロシアに対してさまざまな制裁を課すことには、ちょっと違和感がある。近代の社会は、「犯罪者」に報復(制

裁)するのではなく「更生」を求めようになっている。教育の世界でも「懲罰」ではなく、自覚的に改めるような「指導」を第一に考えるのが主流だろう。また、アメリカがイラクやアフガニスタン等を空爆しても制裁は受けない。
多くのマスコミは、ジュネーブ条約の考えのままに民間人への攻撃を非難するが、軍隊(徴兵された者を含む)

ご感想やご意見をお寄せいただくと励みになります。

GENチャンネルはYouTubeのトップページから「緑の地球ネットワーク」で検索すると出てきます。下記URL(https://www.youtube.com/channel/UCRXZ1TV0CjEiVI4RKgSnjUQ)、もしくは右下のQRコードよりアクセスしてください。

○アンケートのご協力に感謝
GEN会員メーリングリストにてGENチャンネルのアンケートをとったところ、さっそくご回答とあたたかいメッセージをいただきました。アンケート結果を活かしてまいります。また、メッセージはすべて目を通させていただき、制作一同元氣になりました。

ご協力いただいたみなさまにお礼申し上げます。



あの人 この人

「あの人この人」では、個性豊かな GEN 会員をご紹介します。このコーナーでご自身を紹介くださる GEN 会員を募集しています。「我こそは」という方は GEN までご連絡ください。

美谷島 克実さん(東京都)



私は、現役のころは石油開発という仕事に従事していた。アマゾンやボルネオなどでも井戸を掘ったが、石油の掘削現場というのはジャングルを大きく切り開いて作るの、およそ環境保護とは真逆のことを長くやってきたのである。定年まであと数年という 2007 年、たまたま日比谷公園の前を通りかかると「森の市」というイベントが開かれていた。森という言葉に惹かれて会場へ

足を踏み入れたところ、緑の地球ネットワークと書かれたブースの前で妙齢なお嬢さん? に呼び止められた。わけの分からぬままに、気が付けばその年の夏には大同ツアーに参加していた。藤原さん、橋谷さん、佐々木さんなど、その後いろいろお世話になる方が一緒だった。その中に妙に日焼けしたオジサンがいた。酔っぱらって我われのツアーに紛れ込んだ現地のお百姓さんかと思ったら、それが高見さんだった。この年のツアーでは農家のお宅に宿泊した。黄土高原で木を植えたことよりも、その農家の裏庭に掘った巨大堅穴式トイレで用を足したことのほうが強烈な思い出として残っている。植林予定地の呉城村から見た浸食谷の向こうに広がるアンズ林の景色は圧巻だった。表土が削られむき出しになっていた黄土高原を、まるで柔らかな緑の被膜で保護するように美しくどこまでも広がっていた。春ならばピンクのカーペットに変身するのだとか。それが、わずか 15 年ほどの GEN の活動成果だと知ってなおさら感動した。

ツアーから帰った後、GEN の運営懇談会に出席した。その時、毎年中国まで行けないのでどこか国内に活動の場所を作ったらどうかと申し上げた。すると横に座っていた藤原さんが手を挙げて、それなら自分の住む西伊豆が適当かもしれないと答えた。それが、そ

の後 10 年以上も続くことになる「西伊豆プロジェクト」の始まりだった。2011 年の春には下見を兼ねて第一回の西伊豆合宿が行われ、30 人以上の方が参加した。

その後、上田先生と藤原さんを中心として毎年様々な活動を実施してきた。荒れた山から木を伐り出し、それを無煙炭化器で炭にして休耕田に撒いた。その休耕田でサトイモやサツマイモなどを育てた。宇久須にはそうした活動の基地となる宿舎も借りた。現地の古老をお招きした講演会ではイルカの追い込み漁の話を知ったこともある。戦後の食料難を西伊豆のイルカが救ったのである。国際ボランティア学生協会の学生の皆さんともつながりができた。かれらとの共同活動は今も続いている。

あの日からはや 15 年が過ぎた。この頃、ふと思うことがある。もしあの日、たまたま日比谷公園の前を通らなかつたら、今頃は何をしていたのだろうか。



アマゾンの掘削現場

オンラインブースより活動紹介動画をご覧いただけますので、まだご覧になっていないかたはぜひ一度アクセスいただけたらうれしいです。

また、今回作成した動画は GEN の YouTube チャンネルにもアップしています。下記 URL

https://youtu.be/hU4Qf_GHACK にアクセスいただくか、下の QR コードからアクセスいただけます。お知り合いや周辺の方に GEN

とはどんな団体かを伝えるツールとしてもぜひご活用ください。



ワン・ワールド・フェスティバルに参加しました

たくさんの「いいね!」をいただき、ありがとうございました

第 29 回目はオンライン開催となったワン・ワールド・フェスティバルが 2 月 1 日より開催され、GEN はオンラインブースの活動紹介動画で出展しました。

活動紹介動画の作成は世話人有志でチームをつくり、取り組みました。黄土高原での緑化協力の実績の紹介や、GEN 会員がそれぞれ GEN の魅力や思いを語るなど、それぞれの力を結集して作り上げたものです。オンライン上

ではありますが、会員同士がつながって作成し、よいものが作れたことをとてもうれしく思っています。ご協力いただいたみなさま、どうもありがとうございます。

今回の GEN の動画は多くの人に見ていただき、気に入った動画をクリックする「いいね!」をたくさん押しもらいました。ワン・ワールド・フェスティバルは当初 2 月いっぱい予定でしたが、期間が延期され、3 月中はまだ

さまざまな魅力が備わる森との暮らし

中村 遥人 (大阪大学 1 回生)

2 月 24 日、GEN なんでも勉強会オンライン「ヨーロッパ人の暮らしと森：エストニアとドイツから」をおこない、42 名が参加しました。

2022 年 2 月 24 日、『GEN なんでも勉強会オンライン ヨーロッパ人の暮らしと森：エストニアとドイツから』と題した勉強会が Zoom 上で開催された。参加者は合計で 42 名。GEN 会員以外の参加者が 6 割を超え、10 代から 70 代以上まで幅広い年齢層の方がたが参加する勉強会となった。

勉強会では、GEN 世話人でエストニア在住、タルト大学研究員の藤沼潤一氏と、日本とドイツを拠点にコンサルタント事業を営む合同会社喜代七の山元周吾氏を講師としてお招きし、人と森の関わりという観点で現地在住者ならではの話をうかがった。以下に簡単に講演の内容を述べていく。

前半：エストニア編

講師の藤原氏はマクロ生態学の専門家ということで、その講演はエストニアの気候、植生についてから始まった。曰くエストニアは全土が北海道とおなじ亜寒帯域に位置し、動植物の種類は日本と比べ少ないという。しかし人と森との関係は日本よりずっと密接で、例えばキャンプ場に行けば斧と薪がタダで使えるし、事前に申し込んでお金を払えば国有林の木でクリスマスツリーが作れる。森林の個人所有率も高めで(人口比 8%)、個人がある程度自由に木材を扱えるというのは小国ならではの魅力だろう。

後半：ドイツ編



南ドイツはミュンヘン、アウクスブルクにおける森と、ドイツ人と森との距離感について考察していく講演だった。土地所有という面では大規模化、集約化が進んでいるものの、ドイツでは森でのハイキングや自然観察、森林浴は一般的で、7 割近い人が月に一度は森林を訪れるという。文豪、哲人、芸術家にも森を好む者は多く、森はドイツ文化の礎の一つという側面を持つ。このような人と森の密接な関わりは森との心理的距離すなわち意識によるものなのか、それとも物理的距離すなわち環境によるものなのか。これが山元氏の私たちへの問いであった。

GEN で活動中のインターン生の紹介

GEN では 2 月～3 月の 2 か月間、インターン生を受け入れています。オンラインのみでの活動となりますが、SNS での発信など学生ならではの視点で GEN でなができるか考え、精力的に取り組んでいますので応援よろしくお願いします。

中村遥人さん



初めまして。今回緑の地球ネットワークにインターンとしてお世話になっている大阪大学の中村遥人です。大学では言語学を中心に学んでいます。

このインターンで、オンラインという万全とは言えない環境ではありますが、世界的に喧伝されている環境問題とは実際にどのようなものなのか、また国境を越えて問題解決に取り組む意義など会員の方々の経験をうかがい、環境問題や国際協力について知見を深

めたいと思っています。またインターン生として活動の証しとなるような形に残るものを創りたいとも思っています。よろしくお願いします。

白樫勇人さん



初めまして。今回緑の地球ネットワークにインターンとしてお世話になっている関西学院大学の白樫勇人です。大学ではドイツ語、文学を中心に学んでいます。

このインターンでは、対面で活動することがなく、全てオンラインで活動していますが、社会経験を得ることは

もちろん、世界で起こっている環境問題に対して人びとはどのようにその問題に立ち向かっているのか、また異文化での暮らしや交流、そして人々が暮らしの上で自然とどう向き合っているのかなど会員の方々や世話人の方々の経験をうかがい、環境問題や政策、国際協力や異文化交流について学び今後の人生に活かしたいと思っています。

また僕は、GEN さんの Twitter などに現れているので、そちらのチェックもお願いします。

GEN 自然と親しむ会 中止のご報告

2 月 20 日(日)に開催を予定していた GEN 自然と親しむ会「大阪城公園でバードウォッチング」はコロナの感染拡大がおさまらず、開催を見合わせました。

来年度もバードウォッチングは続けていく予定ですのでまたの機会にぜひご参加ください。



黄土高原紀行 <8>

二、上・下華嚴寺（1）

谷口 義介（GEN 会員）

昼食は市内のレストランで羊の鍋料理（しゃぶしゃぶ）。この地方は内モンゴルに近く、遊牧文化の影響が色濃い。ヒツジの肉は臭いといって敬遠されるが、料理の直前まで生かしておくので、そんな心配はない。血を固めてトウフ状に四角く切ったものには、少し腰が引けたが…。

午後、市内西部にある上・下華嚴寺を参観する。同一地区にあり、ともに遼代（916～1125）に創建された。

遼は中国東北部より出た契丹（モンゴル・ツングース系遊牧民族）がたてた国。しだいにモンゴル高原へと支配地をひろげ、936年には燕雲十六州、つまり燕（いまの北京あたり）・雲（大同周辺）をはじめとする長城内外の広域を領有。1004年、第6代聖宗が宋とむすんだ澶淵の盟でこれを認めさせた。燕雲十六州の西部＝西京の中心都市として置かれたのが西京大同府、いまの大同市にほかならない。聖宗は、政治・軍事組織をととのえ、法典を公布し、つづく興宗・道宗にいたる約100年間、遼の国運は隆盛をきわめた。

上華嚴寺は、第8代道宗の1062年、名前のおり華嚴宗の寺として創建された。いうまでもなく、華嚴宗は『華嚴経』を根本経典とする宗派で、『華嚴経』のサンスクリットは「ブツァヴァタンサカ・ストラ」、漢訳では『大方広華嚴経』。「無数のブツァの壮麗なる集まり」という意味らしい。そして、宇宙にはさまざまなブツァ（仏）

が存在するが、それらは毘盧遮那仏（サンスクリット語「ヴァイローチャ」、宇宙仏）という一人の仏に収束されると考えた。つまり華嚴宗は、皇帝を中心とする中央集権体制をめざす国家にとって、きわめて都合のよい教えだったわけだ。そういえば、奈良朝も聖武天皇のとき華嚴宗によって東大寺を建てたが、「奈良の大仏さん」は盧舎那仏＝毘盧遮那仏だった、と思い出す。

バスをおりて、まず上華嚴寺に行ってみる。もともと偉容を誇った大寺と伝えられるが、1122年、保大の乱で焼失。遼をほろぼした金の1140年に再建され、のち明代に修復された。山門を入れて圧倒されたのは豪壮大雄宝殿（いわゆる本堂）で、幅54メートル、奥行き29メートルの長方形。中国最大の木造建築といわれる。朱色の壁、瑠璃瓦の大屋根の両端に巨大な鸞尾をのせている。本殿の内部は、壁も天井も極彩色の壁画で埋められ、正面に5体の本尊「五方仏」。さながら浄土に遊ぶの観あり。

大雄宝殿の後ろの方で、大きな読経の声がする。行ってみると御堂があり、「念仏寺」の扁額の下に、「南無阿彌陀仏」と金字で書いた赤い横幕がかかっている。いうまでもなく、「阿彌陀仏に帰依したてまつる」という意味で、浄土教ではかく名号をと

えることによって浄土に生まれることができる、と説く。その下で、黄褐色の僧衣をつけた若い僧が横向きに坐し、両手で経本を持って朗々と読経。向かい側の黄衣の女性は尼僧だろう。御堂の濡れ縁や椅子にすわった数十名の熟年女性が、やはり経本を手に声を合せている（写真）。

もともと華嚴寺は、新興国家・遼にふさわしく「この世は仏国土」になりうるとする華嚴宗の寺院としてスタートしたが、いまは浄土宗のお寺である。平たくいうと、『華嚴経』が「現世で仏に会うことができる」と説いたのに対し、浄土宗では「あの世で仏に会える」と説いた。

けっして豊かそうには見えない善女たちが阿彌陀如来に願うのは、はたして何だろうか。社会主義の理想とはなお遠く、格差の拡大と貧困。1997年のデータでいうと、一人あたりGDP（国内総生産）は、1位が上海市で2万5750元（約36万6300円）であるのに対し、山西省は16位で4736元（約7万1000円）。この法会にどう人々にとって、まだ仏国土は実現していない。

地から湧き出るような読経に、「欣求浄土」の声が聞こえたように思った。



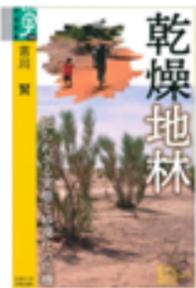
本の紹介

『乾燥地林～知られざる実態と砂漠化の危機』吉川賢著／京都大学学術出版会／2,200円（税込）

吉川賢さんは1987年、中国の乾燥地で水不足に立ち向かう樹木の必死さに魅せられて、世界中の乾燥地を訪れるようになったそう。私が黄土高原にのめりこんだのも、厳しい環境で生きる人と植物の強さにひかれたからだ。と

くに大きくなる前に老いてしまったポプラ「小老樹」がすきで、大同のなかまから「小老樹主義」というあだ名をもらったほど。早魃の年、そのポプラが先枯れをおこすのは命を守るためだと私は勝手に思っていた。吉川さんはこの本で、乾燥地のジャクシンや胡楊が同じようにして命を守り、乾燥地では普遍的な現象だと紹介されている。ちょっとうれしかった。じつはこの本、届いたのは昨晩で、

出勤の電車で十分の一しか読んでいないが、締め切りに迫られてこれを書いた。私たちの生きる環境はこれから厳しくなる一方だと思う。乾燥地の植物の知恵に学ぶのは必要であり、楽しくもある。（高見）



大同緑化協力 25 年の軌跡

立花吉茂先生のちからわざ

GENの山西省大同市での25年の緑化協力を振り返り、当時の写真も交えてシリーズでご紹介します。今回で30回目です。（高見邦雄）

私たちの最初の協力拠点、環境林センターが大同市南郊区平旺郷で始動したのは1995年夏です。苗畑や見本園、研修施設を備えたセンターの発案者、立花吉茂代表も駆けつけてくださいました。日本の大学の先生だといっても、地元の技術者たちはお手並み拝見といったところ。みなここに集まったばかりでした。

座学で始めると、彼らも私も考えていました。そしたら立花先生はいきなり苗畑に行かれ、鍬を手に苗床づくりにとりかかれた。その鍬遣いの鮮やかさに技術者たちは仰天したのです。

それからハウレンソウだったか、先生は「こうやって蒔くんだ」と言って、ばら蒔きされました。種子の一粒一粒が意志をもつかのように均等に散らばっていきます。

もっと驚かされたのは刃物です。一人のもっている剪定鋏を取って、七つ道具をいれたウエストポーチからヤスリを取り出し、サッとひと研ぎ。鋏を返して、試し切りをするようなちゃんな目顔で促されました。そのあとの技術者の驚きの顔！それほど切れ味がちがったのです。

あるときは接木や挿し木に使う刀（とう）を砥石で研がれました。数分のことです。受け取った技術者たちはそれを回し見しながら、自分たちは半日かかってこは研げない、といって脱帽しました。

1992年に協力を始めて、最初の数年、植林は失敗することが多かったのです。植えている場面を私が録ったビデオを先生にみてもらったら、「枯れる原因は水不足ではありません。世界でも稀な粒子の小さな黄土です。苗を植え水をかけたあと足で踏んだら、酸素が追い出されて根が窒息して枯れるのです」。

私がおのれを技術者たちに伝えても、相手にしてくれません。立花先生は植林の現場で、そして環境林センターで、比較実験をしかけて、技術者たちに挑みました。結果がでるまで時間がかかりますけど、何度も何度も繰り返されたのです。技術者たちが自分で納得すれば、それは結果をもたらします。日本で学生に教えるより教えがいがある、と先生は話されました。

ベテラン技術者の侯喜さんは、自分でそのことを納得すると、古巣の大同市林業局に働きかけて普及してくれました。かつてのような植え方は、一帯からなくなっていきました。

育苗の大項目にアンズ苗があります。地元の技術者が芽接ぎ（接木の一種）をしているのを見て、立花先

生は「ナイフの動きに迷いが無い」といって感心しておられました。相手のこともよく見ておられたのです。

そのような信頼関係ができたのも、もとをたどれば最初の出会いのちからわざです。長いあいだ、そばにいて「これは2年以上授業料を払った人にしか教えないんだけど、あなたには特別に」といっていろいろ教えていただいたのに、土台のできてない私はその多くが身につきませんでした。もったいないことです。



現地の技術者を指導する立花先生

会員メーリングリストに参加しませんか

～さまざまな情報をタイムリーにお届けします～

昨年7月よりGENの会員メーリングリストを作成し、現在100名近い方にご参加いただいています。これまでGENでおこなうGENなんでも勉強会などイベントのご案内やYouTubeのGENチャンネルの新作配信情報などGENの最新のお知らせをお伝えしてきたほか、文字起こしボランティア募集やGENチャンネルのアンケートなど、GENと会員のみなさんのスムーズな双方向のやりとりを可能にする貴重なツールとなっています。また、他団体の環境に関するセミナーの情報などもお届けしています。

今後も活発にMLを活用してみなさ

まと繋がり、旬の情報をお届けしていきたく思います。

GEN会員であればどなたでも参加可能ですので、ご希望の方はメーリングリスト参加希望とし、GENまで (gen@gen-tree.org) メールをお送りください。

もしくは下記URL (https://forms.gle/cwpUnRvImyicRfSN8) または右上QRコードより「Google Form」アンケート用紙にてお申込み可能です。





ハッピーアースデイ
大阪 2022
with 久宝寺こうえんマルシェ

ハッピーアースデイ大阪は楽しく地球のことを考えるイベントです。地球環境・社会問題を学べる体験ブースなどが久宝寺こうえんマルシェのブースに並ぶほか、ハッピーアースデイ大阪では3月はアクション月間としてさまざまなイベントをおこなっています。

- 日時：3月27日（日）10時～16時
- 場所：久宝寺緑地北地区風の広場付近（近鉄大阪線「久宝寺口」駅より西へ1.2km JR大和路線「久宝寺」駅より北へ1.2km）
- 主催・問合せ：ハッピーアースデイ大阪実行委員会（URL <http://www.happy-earthday-osaka.jp/> e-mail：info@happy-earthday-osaka.com）

土佐文旦
いかがですか

土佐の春の香りをお楽しみください。

- A 3-4L 5kg (6-9玉) 4,200円
- B 2L 〃 (10-11玉) 3,700円
- C L 〃 (12-13玉) 3,200円

倍量の10kg箱もあります。

- 送料：関西1,000円、中部・北陸1,050円、九州1,100円、関東・甲信越1,100円、東北・北関東1,300円、北海道1,500円（20kgはプラス300円）

★ご注文は下記まで

【田中農園】

* 当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
* 当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

〒781-7412 高知県安芸郡東洋町河内203 tel/fax.0887-29-2500
e-mail：tanakan3@crocons.ocn.ne.jp
※売り上げの一部を寄付していただいていますので、ご注文時にひとこと「GENの紹介」と添えてください。

いままぐできる
GENへの協力

■会員の輪をひろげよう！

緑の地球ネットワーク会費（年額）

一般会費	12,000円
家族会費（同居の家族2人目から）	6,000円
学生会員	3,000円
ジュニア会員（中学生以下）	1,000円
団体会員	12,000円
賛助会員	100,000円

※会費は会報購読料を含んでいます。

■会報を購読してください！

GENに関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読していただけませんか。年間購読料2,000円。

■緑化資金、運営寄付もとむ

金額は自由です。また、緑化資金、運営寄付の別を問わない用途自由のご寄付も受け付けます。その場合必要に応じて使わせていただきます。*緑化資金の20%は事務管理費になります。

■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはが

きを集めています。通信費にあてます。

■未使用切手・古切手を集めています
普通切手、記念切手、外国切手なんでもOK。古切手は周囲を1cmほど残して切り取ってお送りください。

■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。参加可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときにGENから連絡します。

* * * * *

【GENへの寄付は税制上の

優遇措置を受けられます】

緑の地球ネットワークは大阪市に認定された認定NPO法人です（期限は2024年4月8日まで）。

個人によるGENへの寄付は、税額控除あるいは所得控除を受けられます。対象となるのは2,000円を超える寄付金で、確定申告が必要です。

企業からの寄付金は一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また、個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定NPOに寄付すると、相続税の課税対象から除外されます。

GENの場合、寄付金となるのは緑化基金、運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち1口を超える部分、賛助会費から12,000円を引いた金額です。

また、大阪府民、大阪市民のかたには個人住民税の控除もあります。くわしくはGENまでご連絡ください。